

令和6年度 学力向上指導改善プラン

小野小学校長 山本 司

学校教育目標		心豊かにたくましく自ら学び人とながる 小野っ子の育成		
推進主体		管理職、学校教育改革推進委員会を中心とした学力向上委員会		
学力に関する前年度の状況・経年の課題等				
学力的状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問調査の結果も含む)	国語	○全国学力調査では、「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉えることができるか」を問う設問で、正答率が100%で全国平均を26.0ポイント上回った。 ◆自分の考えを持つ、友達の考えと比較しながら聞く等、言語活動を活性化し、子どもたちが主体的に取り組むことを継続的な課題と考えている。	
			算数・数学	○「数と計算」の領域の「示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるか」を問う設問で、正答率が全国平均を32.2ポイント上回った。 ◆自分の考えをノートや黒板、iPadを使って発表したり、図や表を使って説明したりすることに課題がある。
学力的状況	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	国語	○全国学力調査の「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問で、肯定的な回答が88.9%と全国水準より20ポイント高くなった。 ◆タブレット端末を使って発表したり、図を使って説明したりする活動に取り組み、考えを表現したり、考察したり、判断したりする力を伸ばす。	
			算数・数学	○年度初めに学力テストを行い、各児童の漢字、計算の学力について把握し、個別支援に活かす。 ◆ミライシードを活用し、朝学習等で取り組むとともに、更に家庭学習との連携を進める。
			国語	○質問紙の「規範意識」「生活習慣・学習習慣」については概ね良好である。児童アンケートの「おのっこ読書」の取り組みで、読書が好きな児童が増え、学習習慣の好評価にもつながっていると考える。 ◆質問紙で、国語が好きな児童が88%であったのに対し、算数・外国語は30~40%と低かった。
学力的状況	授業等からうかがえる状況(各教科)	国語	○質問紙の「規範意識」「生活習慣・学習習慣」については概ね良好である。児童アンケートの「おのっこ読書」の取り組みで、読書が好きな児童が増え、学習習慣の好評価にもつながっていると考える。 ◆質問紙で、国語が好きな児童が88%であったのに対し、算数・外国語は30~40%と低かった。	
			算数・数学	○家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」で具体例を示し、児童アンケートで成果を見取ることができた。 ◆音読、漢字・計算の復習等の継続、自主学習の取り組み等、家庭学習の習慣の定着を図る。
			国語	○質問紙の「規範意識」「生活習慣・学習習慣」については概ね良好である。児童アンケートの「おのっこ読書」の取り組みで、読書が好きな児童が増え、学習習慣の好評価にもつながっていると考える。 ◆質問紙で、国語が好きな児童が88%であったのに対し、算数・外国語は30~40%と低かった。
学力的状況	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	国語	○質問紙の「規範意識」「生活習慣・学習習慣」については概ね良好である。児童アンケートの「おのっこ読書」の取り組みで、読書が好きな児童が増え、学習習慣の好評価にもつながっていると考える。 ◆質問紙で、国語が好きな児童が88%であったのに対し、算数・外国語は30~40%と低かった。	
			算数・数学	○家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」で具体例を示し、児童アンケートで成果を見取ることができた。 ◆音読、漢字・計算の復習等の継続、自主学習の取り組み等、家庭学習の習慣の定着を図る。
			国語	○質問紙の「規範意識」「生活習慣・学習習慣」については概ね良好である。児童アンケートの「おのっこ読書」の取り組みで、読書が好きな児童が増え、学習習慣の好評価にもつながっていると考える。 ◆質問紙で、国語が好きな児童が88%であったのに対し、算数・外国語は30~40%と低かった。
学力的状況	授業改善	国語	○質問紙の「規範意識」「生活習慣・学習習慣」については概ね良好である。児童アンケートの「おのっこ読書」の取り組みで、読書が好きな児童が増え、学習習慣の好評価にもつながっていると考える。 ◆質問紙で、国語が好きな児童が88%であったのに対し、算数・外国語は30~40%と低かった。	
			算数・数学	○家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」で具体例を示し、児童アンケートで成果を見取ることができた。 ◆音読、漢字・計算の復習等の継続、自主学習の取り組み等、家庭学習の習慣の定着を図る。
			国語	○質問紙の「規範意識」「生活習慣・学習習慣」については概ね良好である。児童アンケートの「おのっこ読書」の取り組みで、読書が好きな児童が増え、学習習慣の好評価にもつながっていると考える。 ◆質問紙で、国語が好きな児童が88%であったのに対し、算数・外国語は30~40%と低かった。
学力的状況	校内研究の状況	国語	○質問紙の「規範意識」「生活習慣・学習習慣」については概ね良好である。児童アンケートの「おのっこ読書」の取り組みで、読書が好きな児童が増え、学習習慣の好評価にもつながっていると考える。 ◆質問紙で、国語が好きな児童が88%であったのに対し、算数・外国語は30~40%と低かった。	
			算数・数学	○家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」で具体例を示し、児童アンケートで成果を見取ることができた。 ◆音読、漢字・計算の復習等の継続、自主学習の取り組み等、家庭学習の習慣の定着を図る。
			国語	○質問紙の「規範意識」「生活習慣・学習習慣」については概ね良好である。児童アンケートの「おのっこ読書」の取り組みで、読書が好きな児童が増え、学習習慣の好評価にもつながっていると考える。 ◆質問紙で、国語が好きな児童が88%であったのに対し、算数・外国語は30~40%と低かった。
学力的状況	校内研修の状況	国語	○質問紙の「規範意識」「生活習慣・学習習慣」については概ね良好である。児童アンケートの「おのっこ読書」の取り組みで、読書が好きな児童が増え、学習習慣の好評価にもつながっていると考える。 ◆質問紙で、国語が好きな児童が88%であったのに対し、算数・外国語は30~40%と低かった。	
			算数・数学	○家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」で具体例を示し、児童アンケートで成果を見取ることができた。 ◆音読、漢字・計算の復習等の継続、自主学習の取り組み等、家庭学習の習慣の定着を図る。
			国語	○質問紙の「規範意識」「生活習慣・学習習慣」については概ね良好である。児童アンケートの「おのっこ読書」の取り組みで、読書が好きな児童が増え、学習習慣の好評価にもつながっていると考える。 ◆質問紙で、国語が好きな児童が88%であったのに対し、算数・外国語は30~40%と低かった。
学力的状況	家庭・地域等の状況	国語	○質問紙の「規範意識」「生活習慣・学習習慣」については概ね良好である。児童アンケートの「おのっこ読書」の取り組みで、読書が好きな児童が増え、学習習慣の好評価にもつながっていると考える。 ◆質問紙で、国語が好きな児童が88%であったのに対し、算数・外国語は30~40%と低かった。	
			算数・数学	○家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」で具体例を示し、児童アンケートで成果を見取ることができた。 ◆音読、漢字・計算の復習等の継続、自主学習の取り組み等、家庭学習の習慣の定着を図る。
			国語	○質問紙の「規範意識」「生活習慣・学習習慣」については概ね良好である。児童アンケートの「おのっこ読書」の取り組みで、読書が好きな児童が増え、学習習慣の好評価にもつながっていると考える。 ◆質問紙で、国語が好きな児童が88%であったのに対し、算数・外国語は30~40%と低かった。
学力的状況	小・中における教科連携等の状況	国語	○質問紙の「規範意識」「生活習慣・学習習慣」については概ね良好である。児童アンケートの「おのっこ読書」の取り組みで、読書が好きな児童が増え、学習習慣の好評価にもつながっていると考える。 ◆質問紙で、国語が好きな児童が88%であったのに対し、算数・外国語は30~40%と低かった。	
			算数・数学	○家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」で具体例を示し、児童アンケートで成果を見取ることができた。 ◆音読、漢字・計算の復習等の継続、自主学習の取り組み等、家庭学習の習慣の定着を図る。
			国語	○質問紙の「規範意識」「生活習慣・学習習慣」については概ね良好である。児童アンケートの「おのっこ読書」の取り組みで、読書が好きな児童が増え、学習習慣の好評価にもつながっていると考える。 ◆質問紙で、国語が好きな児童が88%であったのに対し、算数・外国語は30~40%と低かった。
4月		2~3月		
学力向上に向けての重点的な目標		年度末評価		
(指標となる数値等)		(今年度の成果と来年度に向けた課題等)		
成果となる目標		評価		
具体的な行動目標				
(成果目標達成のための具体的な手立て等)				
・フリートークを取り入れた学習を展開し、自ら問いを持ち、課題解決に向けて話し合う中で、考えたことを相手や目的、意図に応じて話したり、理由や根拠を説明したりする活動を通して、自分の考えを表現するために必要な能力を高める。	・全国学力・学習状況調査、単元テストの平均正答率で、到達度の目安となる全国平均正答率を上回る。	・フリートークによる授業を展開し、「書くこと」「話すこと」を授業の中に取り入れて、自分の考えを持ち、友達の意見と似ているところや違うところを比べながら聞く等の活動を積極的に行う。 ・自分の考えを書く、質問や付け足しをして話し合いをする、など、言語活動の活性化によって、一人ひとりの理解を深める。		
・ガイド学習を取り入れた学習を展開し、友達の発表に対して質問や付け足しをして、話し合いをするなど、対話によって学びを深める授業の中で「自分の考えを分かりやすく説明する」「資料やデータを活用する」などの必要な能力を育成する。	・全国学力・学習状況調査、単元テストの平均正答率で、到達度の目安となる全国平均正答率を上回る。	・ガイド学習を展開し、自分の考えをノートや黒板、iPadを使って発表したり、図や表を使って説明したりする活動を積極的に行う。 ・意図把握、自力解決、集団解決において資料やデータ、具体物や半具体物、絵や図などを活用した活動を通して理解を深める。		
・資料やデータを使って自分の考えを説明する、資料の提示の仕方を工夫する、プレゼンを作成する等、「友だちとの対話を通し学びを深める授業」に、ICT機器を積極的に活用して授業改善を進める。	・全国学力・学習状況調査の質問紙、学校評価の児童アンケートの「ICT機器の活用」についての結果で、昨年度と同程度、あるいは上回る。	・各教科で資料を提示したり、データをもとに話し合ったりする活動にタブレット端末を活用し、情報の収集、整理、分析等の技能の伸長を図る。 ・タブレット端末を活用した協働的な学習の充実、情報の整理等を学習に位置付け、思考の可視化、操作化を促す。		
・テストやプリントによる評価を活用して、基礎的な学習の定着を図り、「分かる」を実感させることで、すべての児童が学ぶ喜びを感じる授業づくりを進める。	・個別学習、補充学習等により、確実な定着を図り、単元テスト等で見取る。	・年度初めの学力テスト等で、各児童の学力の把握を行い、結果を授業改善、個別支援に活かす。 ・ミライシードを活用、朝学習でドリルパークの取り組みを定着させると共に、家庭学習と連携を図る。		
・質問紙と児童・保護者アンケートの結果を連動させ、学習習慣・生活習慣の見取りを行いながら、音読カード、自主学習ノート等による家庭学習の習慣化と、図書室利用の活性化、隙間読書の定着を図る等の取り組みを継続していく。	・質問紙の「生活習慣・学習習慣」について、算数・外国語で昨年度を上回り、学校評価の児童アンケートの「読書が好き」「読書時間」の結果において昨年度を上回る。	・全学年で音読カード、自主学習ノート等の家庭学習を定着化し、学校司書と連携した図書室の活用活性化、毎月23日の「おのっこ読書の日」の設定や、隙間時間を利用した読書タイムの習慣化を図る。		
・家庭学習の充実、読書習慣作り等に取り組んでいけるよう家庭と連携していく。	・家庭学習の課題について、家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」等で具体例を示しながら、家庭学習、読書習慣の定着を図り、学校評価アンケートによる評価結果の向上を目指す。	・家庭学習の音読カードや、朝学習のドリルパーク(ミライシード)を活用した取り組みを進め、家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」を活用した家庭学習との連携を図る。		
・主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善 ・ICT機器を効果的に活用(クラウド環境を活かした授業実施等)	○全国学力調査の「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問で、肯定的な回答が88.9%と全国水準より20ポイント高くなった。 ◆タブレット端末を使って発表したり、図を使って説明したりする活動に取り組み、考えを表現したり、考察したり、判断したりする力を伸ばす。	・各教科で資料を提示したり、データをもとに話し合ったりする活動にタブレット端末を活用し、情報の収集、整理、分析等の技能の伸長を図る。 ・タブレット端末を活用した協働的な学習の充実、情報の整理等を学習に位置付け、思考の可視化、操作化を促す。		
校内研究の状況	○「フリートーク」の研究を通して、言語活動の活性化に継続して取り組んできた成果が、全国学力調査等の話す力・聞く力に表れてきている。	・フリートーク、ガイド学習の授業研究に取り組み、子どもたちに付けたい力や授業のポイントを交流し、共有することで授業改善を進める。		
校内研修の状況	○児童理解、フリートーク、人権教育等の研修を計画的に行い、共通理解を進める。	・フリートーク、ガイド学習、ICTの活用、さらに今日的課題に対応した研修を行い、共通理解を進める。		
家庭・地域等の状況	○行事に参加された保護者が増えた。 ◆コーディネーター、窓口等、地域人材活用の連携体制をとる必要がある。	・年間計画に位置付けた保護者参加行事の設定、各教科や総合学習における地域人材の活用、学校運営協議会による学校評価の連携を進める。		
小・中における教科連携等の状況	○小中連携により、質問紙の中学校区での合同分析で、学校生活が安心・安定しているという結果につながることができた。また、家庭学習や英語学習の課題について、さらに共有を図る。	・各校児童の交流、合同での行事開催、職員相互の授業参観、合同研修会を通じて情報を交流し、児童生徒理解、教育課題の共有を進める。家庭学習や英語学習の課題に取り組む。		
校内研究の状況	○「地域とともにある学校」を推進し、保護者、地域の学校教育への関心を高め、連携を深める。	・学校だより、学級通信、学校メール等で積極的に情報を発信し、保護者アンケートで内容の評価、検討を行う。		
校内研修の状況	○これまでの中学校区四校交流の取り組みを継続し、共通した学習習慣、学習規律の策定等に向けた小中学校間の連携を深める。また、「指導の一貫性」「学びの連続性」の実現に向けた取り組みを進める。	・交流会、連絡会、担当者会等を定期的開催し、回数や内容についての検証、検討を行う。		